

曹洞宗中国管区 教化センターだより

《発行所》

曹洞宗中国管区教化センター
〒722-0033尾道市東土堂町17-29 天寧寺内
TEL. 0848-25-2855
FAX. 0848-25-4148
心の電話:0848-25-2860

《印刷所》

プリントショップ・イトウ
TEL&FAX.084-926-2304

目次

| | |
|------------------|----|
| 管区長遠任あいさつ | 2 |
| 管区長就任あいさつ | 3 |
| 統監あいさつ | 4 |
| センター三十年記念行事を開催して | 5 |
| 紙上法話 | 6 |
| サマーセミナー参加して | 8 |
| 禅をきく会 | 10 |
| 布教協議会講習会 | 11 |
| 青少年教化指導者研修会 | 12 |
| 婦人会研修会 | 13 |
| 行事予定・案内 | 14 |
| 布教師・役職員 | 15 |
| 布教教化方針 | 16 |

平成十七年度 布教教化に関する告諭

世界は今、国境を越えた地球規模の関わりの上に成り立っています。その関わり方に「人権・平和・環境」の諸問題を解く鍵があるのです。

曹洞宗は、本年度も信仰生活の実践を「同事行」と決めました。

『修証義』に、「海の水を辞せざるは同事なり、このゆえに、よく水あつまりて海となるなり」との教えがあります。海はいかなる水もこぼみません。こぼみぬことが同事であり、同事なるがゆえに大海となるのです。「同事」は、苦しきや悲しさを共感し合える「同苦・同悲」の心、理解と協調の世界を指し示しております。

人は皆、幸せを望みながら、民族や宗教、様々な立場の違いによつて悲しい争いを続けています。しかし、こぼみ合い争い合う憎しみの連鎖は、決して幸せをもたらさしませ

ん。関わり合いの上に成り立っている世界は、理解し協調し合うことでしか一つにならないのです。

世は正に混迷の時代です。

宗門の信仰に生きる私たちは、人と人、国と国、人と自然との関わりを、この「同事」の実践に見出そうではありませんか。

「同事」は、この世の全てが、授かった命と共に喜び合える、心おだやかなる世界、ひかり輝く大海を実現する仏の道であります。

殺すことなかれ 殺させることなかれ
差別することなかれ

美しき地球と未来を 子どもたちに
差別をゆるすことなかれ

この願楽がんらくの実践は、「人権・平和・環境」の諸問題を解決する確かな歩みであります。今日ただ今から一歩を進めてまいりましょう。

南無釈迦牟尼仏

平成十七年度 布教教化方針

仏法僧の三宝に帰依し、一仏両祖を奉祀して、曹洞宗檀信徒としての正しい信仰を育てるために、正法の興隆と曹洞禅の宣揚を願い、信仰心の確立を促す布教教化方針を次のごとく定め、教化施策である、「人権・平和・環境」の展開を図る。

- 一、本年度も「同事行」を信仰生活の実践と定める。
- 二、本尊「南無釈迦牟尼仏」の唱名を弘める。
- 三、一人ひとりの人権を尊重するとともに、あらゆる差別行動の撤廃のための啓発教化と反差別行動に取り組む。
- 四、戦争の惨禍を直視し、いのちの尊厳を自覚して、世界平和の実現に向け更なる努力を続ける。
- 五、地球環境をまもり自然と共に生きていく、「グリーン・プラン」運動を展開する。
- 六、布教綱領である「まごころに生きる」の実践として、坐禅会、授戒会修行、国際布教、ボランティア活動を推進する。



管区長退任あいさつ

妙栄寺住職

吉川俊雄

宗務所長に新任されると同時に管区長就任となりました。恥ずかしながら所の機構また宗門行政について十分な知識も得ずしてのスタートでありましたが、各宗務所長老師をはじめ関係各位のご寛大なるご理解とご協力によって任期を無事過ごすことができましたことを衷心より御礼申し上げます。

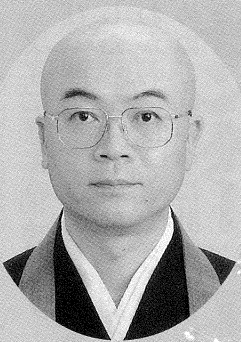
管区に対し十分な寄与もできないままの二年間ではありましたが、管区護持会集会をはじめとする管区行事を通して、不肖はじめ山口県宗務所職員一同管区内の皆様と一層親しいご縁に預かりましたことを有り難く存じます。夏の炎天下での人権学習のフィールドワークでは、地元しながら認識不足であったことに気

づかせて頂きました。また、多々良学園高校移転に伴う管区としての取り組みについては、特に管区の事業ではないものの何度となく遠路にもかかわらず足を運んで頂き議論を重ねさせて頂きました。お陰を持ちまして多々良高校を中心とした教化教育支援の枠組みを立ち上げることができました。重ねて御礼を申し上げます。また、二年目の管区集会は休止となりましたが、時代にまた地域に即した集会を模索することとなりましたことも、宗門の行事の発展的な見直しを余儀なくされていることの表れでありましょう。今後管区の役割も一層地域に即応したものでなくてはならないと思う次第です。

私事ではありますが、時に青年会の

中国連絡協議会を通して多くの方々との親交を持つことができていたことがこのたび大きな励みとなりました。管内の青年会活動の発展も願いたく存じます。また、中国には中国にしかないすばらしい雰囲気があることも実感を致しました。

今後、新しい管区長様による一層の発展を祈念して退任のご挨拶とさせていただきます。



管区長就任あいさつ

広島県宗務所長

鈴木章純

昨年は国の内外で大きな災害が頻発し、中国地方でも多くの被害が発生しました。被災されました方には謹んでお見舞いを申し上げます。この度任期満了で退任されました吉川老師の後任として、管区長に就任致しました。これからの二年間、御教導御鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

管区における最大の事業であります管区集会が、昨年度は検討のため一年休会となりました。多額の予算を消費する割には内容に乏しい。現状のままの継続は余りに勿体ないとの意見が、以前から出されています。地元の要望を反映し、もう少し意義のある会に変革しようと模索されています。本年度は十月に岡山

県で開催予定ですが、過渡的な内容の集会となるでしょう。宗務当局が、ようやく動き出した感があります。

今現在、日本は少子化と更なる高齢化が進んでいます。過疎地域の更なる人口流出のみならず、人口推移の統計によれば都市部でも間もなく人口が減少に転じるようです。そうなれば檀信徒数の減少も必至でしょう。しかし、特定の宗教を持たない人は逆に増加傾向にあります。是非とも宗門の敏速な対策を望むところです。

ご承知の通り教化センターは開設三十年を経過しました。当初は画期的な存在だったと思います。しかし、行政機関である宗務所も同様ですが、教化機関であるセンターも、既存の

檀信徒に対する教化に重点を置いて来ました。それも勿論非常に大切なことです。

教化センターが新たな十年を踏み出す年に当り、宗門は命運を賭ける積りでこれを発展的に強化拡充して欲しいと思います。特に宗教的浮動層の多い都市で、一般大衆が立ち寄れるセンターに変革させて頂きたい。曹洞宗の更なる発展を願うと共に、心の拠り所を求める多くの人々に、優しい手を差し伸べることが出来るでしょう。想像を絶する凶悪事件が発生する度に、宗教に触れたことのない人の殺伐とした心の中を感じます。

統監挨拶

はじめに、旧年度にたまりました数々の御道情に
対し、職員一同衷心より有難く拝し御礼申し上げます。
特にセンター開所三十周年の年度節目に鈴木管区長老
師御高配のもとに記念の式典行事が無事に円成しました
このことはセンター職員として、無上の勝縁に恵まれ
た喜びと同事に三十年という時空の重さを泌泌と感受
する次第でございます。

まさに国内の遠近より法友
のご来駕を頂き、その尊い法
縁の温もりに接し感動一人な
るものを改めて覚えました。



三十周年の記念にと「法話
集」の作成・管区内配布案が、
先のセンター運営・企画委員
会で承認され加えて各宗務所
様のご負担により、予定通り
のご寄稿を得ました。
只今本庁に提出し認可を待つところであります。きつ
とご法話の折またご参究のお友にしていただける事と
一日も早くご膝下にお届けできるよう念い居ります。

次に懸案の「センター移転」の事ですが、このた
び「計画案を提出してみなさい」とのご内示がありま
した。やっと願いが端緒に着いた思いであります。が、
ねがわくは「センター開所三十周年」のほとぼりが冷
めぬ縁の中に計画案が稼働できればと、偏に念うと
ころであります。

センター開所三十一年目を迎えて

心徹原松 善光寺住職

猿やイノシシは山を生活の場として生きてきた。雑木を
過剰に伐採し、実が食べられないスギやヒノキを植え、保
水力がなくなったおかげで水害がもたされ、強風で倒木し
放題。

自分で自分の首を絞めるような行為に走った人間に天の声
がする。「初めに山ありき」だと(朝日新聞「声」・田上
クニ「山を荒らした人間に天の声」)この投書文は、東京
の全唱院さま寺報から借りたもの。

山も里(巷間)も、考えられないことが起こっている。
そのせいか、「共生・人間と自然」等の世論が溢れています。
この事象を前にして、教化者の任を負う寺の和尚はどう動
いているか気になること切。以下、小職に問うその感懐を
添えさせていただきます、お許し下さい。

あるアンケートで、「僧職の人は、法話の人と想ってい
たのに……」が、上位にあった。和尚の話は、世情のニュ
ースだけでなく、そのソースを正しく伝えて「何故なのか」
を問い明らかめようとする姿勢を、仏教ひいきの人達は求め
ているのでは。

諸法実相は衆縁和合の形・姿であるが、今から先を変え
ることは出来る。衆縁は不滅なりだが、不変の実体ではない。
釈尊は六道輪廻から一步前進の目を覚ませよ、とご教説。
両祖は前進の歩みに「回光返照」の御慈慮を示された。衆
生との歩みの中に「何故」の問いがあつてこそ、その動き
が正見でき音と声が聴こえるのではなかるうか。いま、聴
かせる側が聴く側に立ち、傾聴せねばならぬ衆縁が迫って
いる時と思うが如何でしょう。

法縁各位の御法体堅固を念じつつ ご免

失礼しました。

センター三十周年記念行事を開催して

この度、開所三十周年を迎えるに当
たり、鈴木管区長を発起人としてホテ
ルグランヴィア広島で「開所三十周年
記念式典」が開かれた。

に即した布教教化に徹し更なる精進を
誓って閉会となった。
今後ともご指導、ご鞭撻、ご法愛の
程宜しくお願い申し上げます。

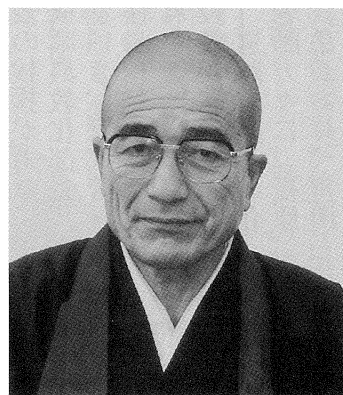
村上邦雄

その前に当センターのメイン行事で
ある親子サマーセミナーの専任講師を
長年お受け下さった「ひろさちや」先
生を招聘して公開の講演会を開催した。
開会に先立ち、松原統監の主唱による
「兵庫豊岡方面の洪水・中越地方の
地震・またスマトラ沖地震による大津
波災害等の犠牲者となられた方々へ追
悼冥福の黙祷をした。悲壮が伴う開幕
ではあったが、充実した講演会であつ
た。続いて発起人代表の挨拶があり、
式典が始まった。清成昭典教化部長、
檀上尚道宗議の祝辞を頂き、歴代管区
長、教化センター退任者への感謝状授
与があつた。出席された管区内の宗議
会議員老師、宗務所役職員諸老師、セ
ンター布教師諸老師、遠路お越しの各
管区教化センター諸老師方々に、松原
徹心統監よりお礼の言葉があり、宮川
敬學前教化部長の発声で祝宴に。
楽しい歓談の後、岩田泰成宗議の言
葉で閉会となった。
散会の前にセンター役職員が壇上に立
ち、統監からの紹介とお礼、また併せ
て、当初の目的でもある、時代、地域



十五周年から三十周年までの歩み

- 平成元年十月二十三日
中国管区教化センター開所十五周年記念式典
於 福山ニコーキヤッスルホテル
- 平成二年五月二十一日
「修証義」公布百周年中国大会
於 山口県徳山文化会館
- 平成五年九月
講師 無着成恭 長野たかし ざ・だんま
- 平成六年四月一日
NHK文化センター 文化講座開始
- 平成六年七月十九日
二代統監 長岡徹宗老師 退任
- 平成六年七月十九日
三代統監 宮田玄洞老師 就任
- 平成六年七月二十日
禪フォーラム 於 広島県民文化センター
講師 有馬実成 青木利夫
- 平成十年三月三十日
三代統監 宮田玄洞老師 退任
- 平成十年七月二十日
四代統監 松原徹心老師 就任
- 平成十一年十月二日
高祖道元禪師ご生誕八百年慶讃法要
於 島根県民会館
- 平成十二年十月十二日
演劇「道元」開催
- 平成十三年十月二十日
於 山口県多々良学園高等学校
- 平成十三年十月十七日
第八回総合研究センターオープンフォーラム
奈良康明 佐々木宏幹
於 広島ホテルニコーヒロデン
- 平成十三年十月十七日
高祖道元禪師七五〇回
大遠忌中国管区予修法要
於 島根県石西県民文化会館



柴口成浩老師



良寛さまの慈愛に学ぶ

良寛さまを評して、原担山は「永平高祖（道元）以来この人に及ぶ者なし」。井上円了は「良寛は是れ佛、誤って人間に落つ」と賛辞をおくっています。没後百七十余年たちますが、「良寛さん」の愛称で親しまれ、敬われ、慕われています。

出家して良寛となり、岡山県玉島円通寺で師国仙和尚の下で、修行に打込みました。一日四回、早朝、朝、夕方、夜の坐禅をし、これを生涯通されたと思われるます。修行中にも近隣寺院への法要や、備中各地ことに玄賓僧都の遺跡には参詣、行脚していた

と思われま

す。四十歳近くになり、良寛は越後に帰りますが、生活は清貧そのものでした。

さてその頃の生家出雲崎の名主橋屋をみますと、裏は荒涼たる日本海、表は人々のゆきかう道路に面して立派な門がありま

すが、邸内は死んだように静かです。人は一人として邸内に入ろうとしません。名主由之は遊興にふけり、長男馬之助は酒色におぼれ、農民からは訴訟を起こされていました。

由之の妻安子は、この二人に代って家を切り盛りしています。傾きかけた家は彼女の細腕ではどうにもなりません。安子は思いめぐらして、良寛さまに「長男馬之助の放蕩をいさめて下さい」と涙ながらお願いしました。

良寛は橋屋に赴き三日間泊まりましたが、馬之助の放蕩には触れません。そして突然馬之助をよび、土間の板の間に腰をかけ「帰るから草鞋のひもを結んでほしい」とたのみました。不思議なことを頼まれるものだと思いつながら、馬之助は無言で良寛の草鞋のひもを結びます。その時、馬之助の首筋に冷たいも

の一滴、彼はハッとします。動くこともできず時間は止まります。

しばらくして馬之助が見上げると、良寛にはあふれんばかりの涙が光っていました。無言のまま馬之助の肩に手をあてます。良寛は静かに立って橋屋を後にします。以後、馬之助の放蕩はやみませんでした。これが有名な良寛の馬之助への「無言の戒め」といわれているものです。

私たちは言葉をもって人を諫言しますが、良寛は一滴の涙で馬之助を改心させています。どうして無言の一滴が馬之助を動かしたのでしょうか。良寛には前述の通り日頃の厳しい坐禅、修行生活に裏付けられた「慈愛の心」「いつくしみ愛する心」があるからだと思えます。

言葉は常に言と行が一致したまごころのこもる真実のことばでなければ、人に届くこととはな

いと思います。良寛さんほど言行一致した人はいないと思えます。

「良寛は是れ佛……」といわれた方でした。日々良寛さんをごころとして、良寛さんを学んでいきます。

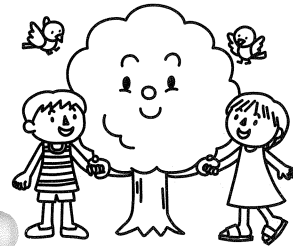
※玄賓僧都（七四三〜八一八）法相宗六祖の一人、河内の人。嵯峨・桓武・平城天皇の病回復の祈願の後、伯耆・備中に隠遁し農民にかかし、添水、水唐白をおしえ、池・用水路、薬草の知識を広め、渡守・馬方となり「隠徳の聖」といわれた。岡山県矢掛町小林僧都地区内墓がある。鴨長明の『発心集』玄寶登場。

大島花束著「良寛全集」七三二頁に「禅門に入りしより僧都玄寶のあとを追ひ」とある。

円通寺を中心に平成十六年五月「備中良寛さんころの寺」（五ヶ寺）を結成し、良寛さんを敬慕しころを伝えたいと努力している。

第20回 親子ゼンインサマーセミナー in島根・三瓶

平成16年7月26日(月)~28日(水)



親子ゼンインサマーセミナー

小5 和田 賢宗

親子ゼンインサマーセミナーは、ぼくは初めてなので、ドキドキしました。班を書いてある紙を見て全員知らない人なので友達ができるか心配でした。朝の坐禅の時ぼくは毎日10分しているけど15分すると10分とちがってちよつと足がしびれました。5分と10分は、あんまりかわらないけど10分と15分はけつこうちがうなと思いました。

埋没林に行きました。木や土を動かさずにそこに建てたとは、しりませんでした。

大きな木や小さな木がいっぱいあっていました。

次にサヒメルに行きました。いろんな虫を見たり動物を見たりしました。サヒメルで問題をしました。ぼくは、6問中5問正解しました。もう一問正解しなかったです。大森の榮泉寺にもいきました。

お父さんの寺なのでひろ先生やたくさんの人達が来てくださり嬉しかったです。マジックショーがありました。

手から玉が1こから2こになったり3こになったり4こになったりしたのでびっくりしました。ほかにほんかん

セミナー様々でした

指導員 嘉戸 一清

前回の参加からどれ位になるだろうか。久しぶりに参加させて頂いた。先生方の顔ぶれは変わらない様子、それでも以前と何か変わった事があるのではと少々緊張しながらの始まりとなった。

子供達はいえ、以前に比べ参加人数こそ少なくなった様だがまとまりよく落ち着きがある様に見える。

先生方のお話、マジック、ゲーム等々みんなの興味を引くテクニックはやはり素晴らしい。私達の頃には出会うことのなかった一流の先生方だ。小学生でなくとも引き込まれてしまう。

又、この度のセミナーの目玉といえば、三瓶・銀山を体験するコースだろうか。埋没林公園、三瓶自然館。恥ずかしい話したが、近くに住みながらこういった施設の存在すら知らなかったのだ。その規模の大きさに驚きながら見学する。銀山での龍源寺間歩も初めて入る。世界遺産の登録を目指す歴史的な遺構である。全くセミナー様々となつてしまった。これに続く遊歩道は長かった。小学生にはきついのでは?と思われたが、きつかったのはむしろ大人の方だったろう。小学生の方が元気が良いのだ。田舎者ほど歩かないというのは本当の

様だ。しかし普段から田舎に住む者にしてみても後に残すべき貴重な自然であると実感した。たどりついた榮泉寺様での休憩はさながら昔の寺子屋の光景、古刹の雰囲気が一層それを思わせる。なんといつても贅沢なコースである。これはむしろ大人の方が喜んだのかもしれない。

これなら決して乗りごちの良いいとはいえない?バスでの移動も苦にならないというものだ。もっとも帰りの車中ではみんな疲れて眠っていたけれど...この体験からみんなは何と無い、何を自分のものとしたのだろうか。私達の世代に比べて年配の方々の年少期の記憶の確かさに驚く事が度々ある。現代は情報化社会といわれるけれど、多様な情報に振り回される事で体験そのものがぼやけてしまうのではないだろうか。しかし今回のセミナーでの経験はみんなの心に強く印象に残ったに違いない。

あの様な自然と歴史に囲まれ、その素晴らしさを実感する喜びを味わったのだから。それは最後のキャンドルサービスでのみんなの生き生きとした目の輝きに表れていたと思うのである。この様なセミナーを体験させて頂いたセンターの皆様や先生方、そして参加者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

ちがってきいてきて最後にハトができたのでおどろきました。でもそのハトはほんとうのハトかなと思いましたがマジックショーが終わった後ステージのぼつて見てみたらほんとうのハトでした。マジックショーで使うハトは本当のハトなんだあとと思いました。

キャンドルサービスの前は何するか考えてなくてキャンドルサービスの前の休み時間に何をするか考えました。ちよつとしか練習してなかったのて上手にできるか心配でした。ぼくはゆうれいをしましたみんなこわがってくれかなあと思いました。ゆうれいがでるとみんなこわがっていました。こわくて泣いている人もいました。キャンドルサービスは大成功しました。終わった後いろんな人からゆうれい上手だったねといわれましたぼくはうれしかったです。

みんなと友達になれてうれしかったです。

サマーセミナーに参加して

幼長 木村 あまね

ある日、お父さんが「今度、大田の三瓶山でサマーセミナーがあるけど行ってみたい?」と話してくれました。私はサマーセミナーってどんな事をするのかな、色々

な人とお友達になれて楽しく過ごせるのかな、まだ保育園の年長組だけ大丈夫かな?と思いました。でも参加してみるとすぐにふうかちゃんとうきちゃんとしようかちゃんや優しくしてくれ仲良くなれたので嬉しかったです。坐禅はちよつときつかったけど我慢ができました。ひろさちや先生のお話して国の名前は忘れたけどヤマとヤミの名前とキリスト教のアダムとイブのお話がおもしろかったです。私はマジックショーで林先生に空中に浮かせてもらいました。その時にはよく分からなかったけれど後で写真を見ると胸がドキドキしました。

お楽しみ会で6班の人がしたおぼけがとても怖くて泣いてしまいました。そして森山みつえちゃんに抱きついてから、寿班のおばちゃんにも抱きついて目を隠してもらいました。

たくさんの人と名刺交換して私は13枚もらって嬉しかったです。来年も参加したいと思っています。

(母親代筆)



禪をきく会

島根 益田市

島根県第二宗務所教化主事 多田利昭

曹洞宗宗務所主催の「禪をきく会」は、中国管区教化センターと島根県第一宗務所主管の下で、平成十六年十月



二日土曜日の午後、益田市の石西県民文化会館大ホールにおいて盛大に開催されました。

今回は宗務所主催の「檀信徒地方研修会」との併修という形をとりましたが、予想を上回る檀信徒約千名が集う会となり、主催者一同責任の一端を全うできたのではないかと思っています。これは偏に教区長さまをはじめ宗侶の皆さん、会の計画・運営に携わっていただきました関係各位のご尽力のお陰であり、衷心より厚くお礼を申し上げます。

会はず先ず主催者を代表して島根県第一宗務所川瀬信夫所長の挨拶に続き、松原徹心統監老師の「いのちに感謝していますか」という法話と椅子坐禅のご指導をいただきました。檀信徒の方は、日頃慌ただしい生活の中で、ゆったりと心静かに過ごす機会が乏しく、この椅子坐禅は新鮮な中にも充実した一時を感じていただけたようです。この後三十分間、修道大学講師の中

畝みのり先生のバイオリン演奏後本会のメインであります文化講演会となりましたが、今回は女優の藤田弓子さんに「いつも何かにときめいていよう」というテーマのお話をしていただきました。

藤田さんのお話は、いくら年を重ねても、「いつでもどきどき、わくわくの心ときめく」生活に心掛けることが若さの秘訣であり、これが生きがいのある生活になるのだと、私たちにひとつの生き方をご教示していただきました。

藤田さんは大変若々しくバイオリナーに溢れ、お人柄も大変明るくご講演は終始ユーモアに溢れ、私たち一同八十分間、藤田さんの話術に酔いしれ、笑いと感動の中、時が経つのも忘れてお話を聴かせていただきました。

今回の禪をきく会は、檀信徒の皆さんにも大変好評で、このような素晴らしい会に巡り合わせていただきましたご縁に対し、心より感謝を申し上げます。してご報告いたします。

禪をきく会

広島 福山市

広島県宗務所教化主事 林 一成



平成十六年度の禪をきく会は、十一月十六日、福山市の広島県民文化センターふくやまを会場に、開催されました。

今回は、エッセイスト、絵門ゆう子さんの講演と中国管区教化センター統監松原徹心老師の禅話と椅子坐禅指導で五百三十名収容のホールは、一般参加もあり満席となりました。

絵門ゆう子さんは、「ゆつくりゆつたり生きる」と題した講演でした。ご自身が転移のあるガンの告知をされて、それでも生きていきたい執念からあらゆる療法をさまよいつつ闘病生活をくり返し、やがてガンと共存しながら生きる希望の灯をみつけ「ガンちゃんありがとう」といえるまでに至った心境を、赤裸々に語られ聴衆は共鳴いたしました。また、二人に一人はガンといえる時代に医療の現場にも触れ、ガンは本人に告知すべきという意見をもとにした療法の話に聴衆は、真剣な眼で聴き聞いていました。

次に壇上で、青年会・寺族・参禅者の有志の方が坐禅を組み、中央の教化センター統監松原徹心老師の「いのちに感謝していますか」の禅話に続いて、老師の指導のもと参加者全員で椅子坐禅を行ない静寂のなか禅に親しみました。

尚午前は、護持会檀信徒研修会に充てられ人権学習としてソプラノ歌手・渡辺千賀子さんによる小さな手の平コンサートを観賞し研修者は、澄みきった歌声に身も心も清らかな心境になりました。

この会に至るまで、地元第六教区のご寺院・ご寺族をはじめ関係各位の皆様は厚くお礼申し上げます。





青少年教化指導者研修会に参加して

青少年の非行の深刻さが、問題になって久しい。いまや、国民的課題であり、私たち宗門の教化活動にとっても、青少年の問題はさけて通れない。いや、檀信徒の目は、私たちの日常的活動に、願いにも近い期待をもつて向けられている。

その様な時、青少年の非行と弁護活動に東奔西走されておいての豊島住夫弁護士さんの講演は、宗門人の一人である私たちに、理解と勇気を与えるものであった。

戦後の日本には、非行のピークが三回あったのが統計上からも明らかである。四回目は、ピークが見えないまま、上昇を続けている。その上少女の非行が急激かつ深刻である。

私たちは、子ども禅つどい、坐禅会、地域での諸活動等を通して、青少年の行動を見つめ、その健全な成長に微力ながらかかわってきた。

山があり川がありと、自然に恵まれたこの国なのに、そこで遊ぶ子どもたちの

数は少ない。生きよう、学ぼうという輝きが、子どもたちの瞳の中に入っている。

豊島氏は、ご自分の弁護士活動を通して、現状の原因を親の教育力不足にあると指摘された。私たちも、檀信徒のかかりの中で、確かに、このことを実感する。

同感しつつ、氏も述べられるように、親だけでなく、家族、地域を含めた国民全体の認識と協力が不可欠であると痛感した。

まさに、私たち宗門の青少年教化活動にかかわる者への課題を示されたと思う。研修会のあとも、目をおおい、耳をとじたい事例があとを断たない。

戦後六十年になるいま、日本人の感性と理性が問われている。それは、私たちにとっても同様である。

研修会の中で、諸老師方から、参加者への苦言が提された。私たちの姿を、心を問われたのだと受けとめたい。

鳥取県二番 興雲寺 吉田廉士



センター布教協議会・講習会に参加して

私はこの度、初めて布教師協議会・講習会に参加させて頂き、講師の先生方から、いろいろと学ばせて頂きました。

私は今、及ばずながら住職の任に就いております。住職ですから、仏道を人々に説いて行かねばなりません。その時、どのような形で布教をしていくのかと考えると足踏みをしています。葬儀・法事の際に修証義の一節を取り出して、話をさせて頂くことはあります。少しでも仏道を理解して頂けたらという思いからです。

葬儀・法事で話すということは、相手方にそのような場を提供して頂いているのではないのでしょうか。布教活動の場を与えて頂いているのです。これ程ありがたいことはありません。せっかくの機会に、全力を注ぐべきだと思います。

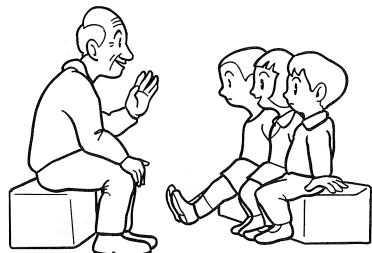
葬儀・法事以外で布教活動となれば、いつ、どのような形で行うのかという問題が出てきます。一般の方々が何に興味があるのか、何を求めているのかを、こちらはきちんと把握しておく必要があります。ここから布教活動が始まるのでは

ないでしょうか。

布教師講習会の講師の先生のお話の中に、「昔は仏教そのものが、自然に日常生活の中にあつた」という内容がありました。確かにそうだと思います。それが日々近代化していく日常生活で、いつのまにか仏教の教えが忘れがちになっていったのでしょうか。しかし、昔と今、生活のスタイルは変わっても、人の心は変わっていません。その心の中に生きていくのが仏教だと思えます。私たちは仏の教えを説き、それが人々の心の中にもいつでも宿っていないか。

ではなりません。それが、明るい生活を送る糧となるのではないのでしょうか。

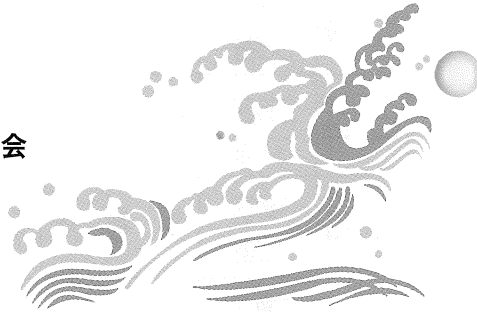
私も何か一つ、仏の教えをきちんと説けるよう、日々精進・努力していく次第です。



鳥取県三番 昌福寺 杉本俊正

中国管区教化センター平成17年度行事予定

| | |
|------------|-------------------------------|
| 4月12日～13日 | 全国教化センター役職員前期連絡協議会 |
| 4月20日 | 教化センター企画委員会 |
| 5月12日～13日 | 人権三者協議会 |
| 5月 | 教化センター布教師協議会 曹洞宗婦人会中国管区役員会 |
| 6月16日～17日 | 青少年教化指導者研修会(広島) |
| 7月8日～9日 | 管区役職員人権学習会(広島) |
| 7月25日～27日 | 第21回子ども禅インサマーセミナー(広島・鞆と尾道) |
| 9月15日～16日 | 布教協議会・講習会(島根第2) |
| 10月13日～14日 | 曹洞宗婦人会中国管区研修会(鳥取) |
| 10月18日 | 宗門護持会管区集会(岡山) |
| 10月20日 | 禅をきく会(鳥取) |
| 10月27日 | 布教師特設検定(九州) |
| 11月1日 | 教化センター運営・企画委員会 |
| 11月24～25日 | 全国教化センター役職員後期連絡協議会 |
| 11月30日 | 禅をきく会(岡山) |
| 平成18年 | |
| 1月 | 教化センターだより 22号編集会議 |
| 2月 | 布教委員長会議 |
| 2月 | 島根県布教講習会 |



青少年教化指導者研修会

| | | |
|--------|-------------------|---|
| 日 | 時 | 平成17年6月16日(木)正午受付 13時開講～6月17日(金)正午まで |
| 会場 | 広島県広島市 アークホテル広島 | |
| 講師 | 濱 文子先生(エッセイスト) | |
| 参加費 | 12,000円 | |
| 対象 | 青少年教化員・青少年教化を志す宗侶 | |
| 申し込み先 | 各宗務所 | |
| お問い合わせ | 教化センター | |

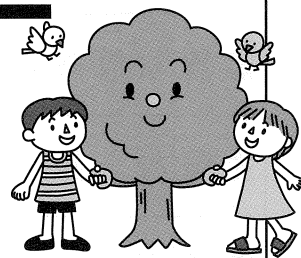
布教講習会

| | | |
|--------|-------------------|---|
| 日 | 時 | 平成17年9月15日(木)正午受付 13時開講～9月16日(金)正午まで |
| 会場 | 島根県松江市 夕景湖畔すいてんかく | |
| 講師 | 未定 | |
| 参加費 | 12,000円程度 | |
| 対象 | 布教師・宗門僧侶 | |
| 申し込み先 | 各宗務所 | |
| お問い合わせ | 教化センター | |

子ども禅インサマーセミナー

夏休みの楽しい思い出づくりに...

| | | |
|--------|--------------------------------------|----------------------|
| 日 | 時 | 平成17年7月25日(月)～27日(水) |
| 会場 | 広島県福山市鞆の浦 鞆シーサイドホテル | |
| 講師 | 板橋興宗 禅師 他多数 | |
| 参加費 | 子ども10,000円 大人20,000円(※大人は保護者・引率者に限る) | |
| 対象 | 小・中学生 | |
| 申し込み先 | 教化センター(申し込み用紙にてFAXか郵送で) | |
| お問い合わせ | 教化センター | |



婦人会 中国管区研修会に 参加して

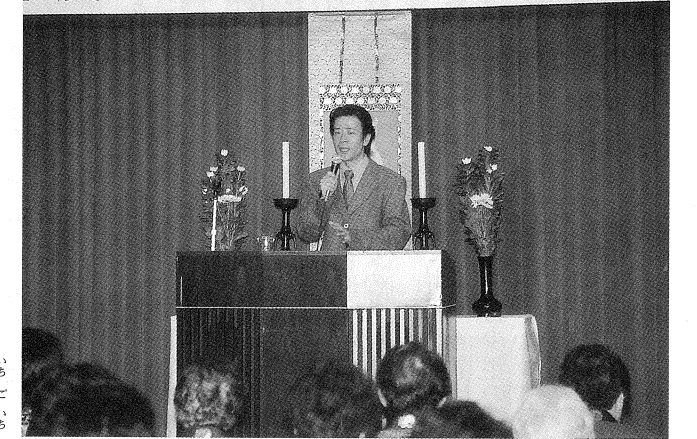
(広島・大野町)

広島県吉祥寺婦人会
向井 富貴江

沢山の出会いに感謝!

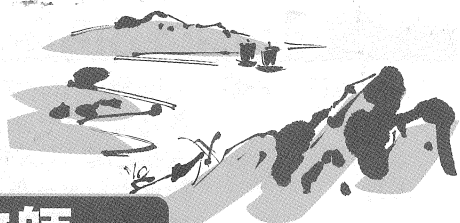
十月十八・十九日の二日間、対岸に世界遺産で有名な宮島厳島神社と大鳥居を望む「安芸グランドホテル」に於いて、婦人会中国管区研修会が行われ、とても充実した二日間を過ごす事が出来ました。午後一時より厳かに開会式が始まり、初参加の私達は、皆様に搭袈裟(たつかけ)をお唱え頂く中、各々に輪轡(りんじ)を授けて戴き、とても感動いたしました。この気持ちをお忘れず、婦人会の一員として精進して参りたいと思います。

度 曹洞宗婦人会中国管区



講師に西田篤史先生を迎え、「一語一絵」と題した講演を拝聴致しました。地元広島弁で、ご自身の生立ちをユーモアに流暢にお話下さいました。先生は最後に「手を合わせ、ニッコリ笑える人生」と締め括られました。二人目の講師は教化センター統監松原老師でした。「見ることは見られていること」と題し講演されました。お釈迦様のお言葉「天上天下唯我独尊」とは、自己卑下を戒め、人格の尊厳を表したもので、お釈迦様だけではなく、皆一人一人が

大切に尊い“と学びました。又老師は、生きる目標として、「自分がいかに幸せに生きるかで、皆が幸せに生きることに通ずる」ともおっしゃいました。二日目はSVA報告がありました。カンボジアの子供達の映像で、絵本を手にした子供の輝く瞳、嬉しそうな笑顔が印象的でした。私達のきやら募金がお役に立ち喜んで頂ける事は、私達にとっても喜びでございます。人権学習ではビデオを観ながら、子供の虐待について勉強しました。若い母親達が大変な想いで子育てを行っている事、孤独と戦いながらも頑張っていることなど、考えさせられました。私も二人の子供を育てる時、悩み、迷いながら育てていたと思います。その時虐待に及ばなかったのは、同じ子供を持つ仲間と相談したり、近所の皆様に激励して頂きながら育てることが出来たからです。三十数年前は、現在より世間も環境も優しくなかった様にはありません。私達は一人で生きていたのでは無く、生かされているのだから子育ても環境整備も、自分達に出来る事は協力し合って、大切な命を大事に育てていきたいものです。二日間、大切な事を沢山教えて頂き、又、沢山のお友達に出会えた事に感謝致します。



センター布教師

| | | | | | |
|-----|-------------|-----|------|----------------------------|-----------------|
| 岡山 | 1教区 9番 | 東林寺 | 越海暢芳 | 〒702-8005 岡山市江崎725-5 | ☎(086) 276-5582 |
| 広島 | 3教区 58番 | 宗光寺 | 垣井龍頭 | 〒723-0062 三原市本町3-11-1 | ☎(0848) 62-4719 |
| 山口 | 2教区 37番 | 安養寺 | 渡辺勝人 | 〒747-0825 防府市新田古前1246 | ☎(0835) 22-1865 |
| 山口 | 3教区 72番 | 真福寺 | 大野恭史 | 〒746-0062 周南市福川中市町6-27 | ☎(0834) 62-2760 |
| 鳥取 | 7教区 151番 | 安国寺 | 森下慈孝 | 〒683-0831 米子市寺町50 | ☎(0859) 22-3836 |
| 島根Ⅰ | 1教区 236番 | 宝隆寺 | 和田善明 | 〒699-2302 瀬摩郡仁摩町宅野町1355 | ☎(0854) 88-2790 |
| 島根Ⅱ | 9教区 187番 | 養善寺 | 西古孝道 | 〒699-1343 雲南市木次町湯村900 | ☎(0854) 48-0371 |

センター役職員

| | | | | |
|----|------|------|-------------------------------|-----------------|
| 統監 | 松原徹心 | 光善寺 | 〒755-0035 山口県宇部市西琴芝2-1-46 | ☎(0836) 21-5465 |
| 主監 | 村上邦雄 | 摩訶衍寺 | 〒722-0202 広島県尾道市原田町梶山田4338 | ☎(0848) 38-0656 |
| 賛事 | 藏重宏昭 | 玄濟寺内 | 〒753-0811 山口県山口市吉敷1584 | ☎(083) 922-4560 |
| 賛事 | 檀上一祥 | 吉祥寺内 | 〒722-2416 広島県豊田郡瀬戸田町林686 | ☎(0845) 27-0719 |